

8月号

2013年 7月 20日発行



## あさのがわ

みやちくじちしんこうかい 広報

宮地区自治振興会 甲賀市甲南町野川818 甲南第三地域市民センター内  
 電話 0748-86-8518 FAX 0748-86-8519

ぐるっとトークは、宮が一番！

平成二十五年六月二十六日

甲南第三地域市民センター

久しぶりに、市長が訪問して地域の人と意見交換する、「市長ぐるっとトーク」が再開されました。今回からは、自治振興会編と言うことで「第一号」に宮地区自治振興会が選ばれました。市長は何度も当自治振興会へ足を運び、元々の知り合いも多いせいも、終始、和やかに「トーク」が進みました。

市長のあいさつの後、スクリーンで地域の現況や、四季折々の宮地区の美しい自然や景色を交えた地域紹介と、宮地区自治振興の『まちづくり』を説明し、各部会での取り組みをそれぞれが説明しました。

市長からは昨年、下野川での「忍にん寄席」に参加した際の感想や、「サル追い払い隊」などの獣害被害とその取り組みについて関心を示され、町おこしのための特産品作りに「こんにやくいも」はどうですかと尋ねると、市長から多羅尾地区での成果など詳しく教えていただきました。市のメールサービス「☆☆サル接近情報☆☆」の宮での利用状況の説明と「土日祝日」にも発信拡大をするよう、お願いしました。

この模様は「広報あいこうか」八月一日号に掲載される他、あいこうかこうかの市政の番組内でも放送されます。



**熱中症の発生は7月～8月がピークになります。熱中症にご注意ください！**

熱中症を防ぐために

- ☆ 体調管理 日ごろから、バランスのとれた食事と十分な休養をとるように心がけましょう。
- ☆ 水分補給 のどが渴いていなくても、こまめに水分を補給しましょう。
- ☆ 室内にいるときは 室内にいても熱中症になることがあります。室内温度は28度を超えないよう、エアコンや扇風機を使い、無理のないように温度調整をしましょう。
- ☆ 屋外にいるときは 外出する際は、日傘や帽子などを上手に利用し、なるべく直射日光に当たらないようにし、外出する時間帯にも注意しましょう。
- ☆ 農作業は 朝夕の涼しい時間を活用しましょう。★★★ 甲南第三地域市民センター便り★★★

## 《夏の特集》

# 宮の古き時代を語ってもらおう。

宮地区自治振興会では、宮のお宝再発見事業や、「滋賀の宮村」に学ぶ事業を展開中であり、今回は宮に育って七十五年以上、しかも元気に頑張っておられる長老を招き色々なお話を聞かせていただきました。

(司会・杉田利正) 本日はお忙しい中、ご苦勞様です。今日は皆様に、戦前戦後を通じて、宮地区の色々なお話をお聞かせ下さい。よろしくお願ひします。まずは自己紹介からお願ひします。

(山川専司様) 下馬杉の山川です。昭和四年四月生まれです。第三小を昭和十七年に卒業、旧制水口中学校卒業し、農業と酪農をやってきました。現在八十四歳です。よろしくお願ひします。

(田中弘様) 柑子の田中弘です。昭和十二年七月生まれです。第三小を昭和二十五年に卒業、甲南高校卒業し、三桜工業を平成九年に退社してからは、農業に従事しています。七十六歳です。よろしくお願ひします。(大原昭一様) 下野川の大



原です。昭和二年生まれの八十五歳です。昭和十五年第三小卒業、終戦後、滋賀相互銀行(現関西アーバン銀行)・甲南農協を経て、甲賀農協の理事もしました。今は隠居の身です。楽しみにやってきました。

(以下第三小教頭柘植先生と自治振興会五役五名が参加。各自自己紹介)

(司会者) 今日は第三小学校の教頭先生も皆さんの話を楽しみに来ていただいていますので、小学校の頃のお話をお聞かせ下さい。

(大原さん) 私はやんちゃ坊主で四年生の時に勉強をしないで廊下で遊んでいたら、先生に水がいつぱい入った洗面器を持って廊下に授業の間立たされた。手が痛くて途中で廊下に水をぶちまけて、放してしまおうかとも思ったが、辛抱した。これが小学校時代の忘れられない思い出。先生が厳しかった。(笑)

(田中さん) 厳しい校長先生がいて、小学校一年生の時、朝礼で一列に並びなさいと言われて並んだら「ゆがんでいる」と言ってパカ



大原昭一さん

ーとどつつかれた。自分ではそんなにゆがんでいなかったのに、びっくりしたけれど、それほど厳しかった。当時は、どつつかれるのが当たり前やった。

(山川さん) 校長先生がバイクに乗っていて、あの時代バイクは珍しかったなあ。まあ我々の小学校の時代は軍事教育で

勝つまでは頑張りましょうと言って、殴ったり厳しい仕打ちばかりしていた。今の時代には許されることではないが、あの時代だったから認められていた。校舎の上には、校長官舎がありそこで校長先生が家族と住んでおられた。

(田中さん) 小学校では、防災訓練ばかりしていたなあ。それと、あの時代は靴がなかったの、わら草履で学校に通っていた。カバンはないし、ランドセルもなかった。雨の日は学校に裸足で行って、晴れの日はお父さんは戦争に行っていないので、おじいさんが作ってくれたわら草履を毎日履いて行っていた。その頃は山には木も無く、歩きにくくは無かった。

(山川さん) 疎開の子も何人かいたし戦後にもしばらくいた。女の先生も子どもと一緒に小さな家で住んでおられた。

(田中さん) 戦争が進むと教科書もなかった。



山川専司さん

新聞紙くらの紙を折ったり切ったりして、それに字を書いて教材にしていた。用紙はわら半紙で、わらのところが字を書いていてもポロツと取れたり、鉛筆は質が悪く、砂が入っているので字も書きにくかった。



(田中さん)そして、食べるものもなかった。一月に一回、日の丸弁当の日があった。アルマイト(アルミ製)の弁当箱を持っている人

もいなかった。小さい入れ物を作ってご飯を詰めて、そこに梅干一個を入れた日の丸弁当を持って行った。その弁当も持ってこられない人もいた。

(山川さん)運動会では一等と二等には賞品に鉛筆をもらった。

(田中さん)僕らの頃はそんな事は、なかったなあ。遊びもかけっこや、相撲、戦争ごっこのような遊びだった。女の子はおとなしかった。将来は男の子は兵隊さん、女の子はお嫁さんといった時代だった。

(大原さん)私は昭和十七年に尋常高等小学校の卒業証書ももらわず、当時の国策であった満州開拓青年義勇隊に入隊したので、その頃の小学校や宮村のことはあまりわからないうが、私以後の方は小学校でも大変だったと聞いている。

(山川さん)栄養補給に肝油ドロップを毎日

もらって食べていた。甘いものが無い時代で、学校で正月と紀元節、天長節の年に三回まんじゅうとみかんを貰って嬉しかった。(笑)



(田中さん)小学校の校歌はなかったけれど、瀬古先生が「滋賀の宮村」と言う歌をつくった。「宮村音頭」と言って、よく歌っているのを聞いた。もう一度聞きたいな。それと小学校の校門の横に奉安庫があり、登下校の時には必ず最敬礼をして通っていた。その中には天皇皇后両陛下の写真が掛けられていた。



奉安庫の菊の紋 (第三小所蔵)

(司会者)お三方

の年齢差によって学校にまで戦争の影響がどんどん大きくなっていくことが解りました。次に、模範村「滋賀の宮村」について教

えて下さい。

(田中さん)兵役で海辺でも漁師もないし船もないので食べる魚もなく宮ではタニシやどじょうを捕る人がいた。卵は食べるものではなく、売るものだと思っていた。その代金は供出していた。

(山川さん)秋になって藁ができたら縄にして出荷して、縄は青年団が販売した。あぜ豆を作ったり、どじょうを捕って販売し、それを供出していた。みんな一生懸命働いて何をするかというところ、その資金が宮村の台所改善に使われて、「滋賀の宮村」の基本になっている。昭和の初めに、結婚して家にいる女性の会で、宮村婦人会があった。その事業として台所改善が始まった。どの家にも一軒に一つ井戸があり、井戸の水を「つるべ」で汲んでバケツに入れて運んで、家の中の台所の水桶に入れたり、風呂に入れていた。それが全部子どもの仕事だった。それが大変だったので何とかしようということで、家の中にガチャコンポンプ(手押しポンプ)を入れて台所改善が始まった。

台所改善として、煉瓦を積んで煙突を立ててから良くなった。当時は茅葺屋根が多かった。茅葺屋根は煙突が立てられなかった。終戦後も宮村の台所改善を視察にバスで来る人が多かった。県でも表彰された。

(司会者)結婚式や、青年団の活動なども「滋賀の宮村」には記載されていますが、実際はどうだったのですか？

(山川さん) 青年団が生活改善として結婚式の簡素化を提案して実現した。青年団が提案したことに対して宮村の人達が従ったことはずいことだと思う。そういうところが宮村の人の従順なところだと思う。

(大原さん) 二十五歳の時に結婚して、家で式を挙げた。新婚旅行は田に行っただけ。

(山川さん) 大八車で花嫁の家にタンスなどを引き取りに行ったが、大雪の日で大変だった。昔は結婚式をたくさんの方が見に来て祝ってくれた。

(大原さん) その当時は宮村の外に勤めに行くということはなく、若い人もみんな宮村に住んでいて、青年団にはみんなが入って、訓練をしていた。酒もよく飲んだ？飲まされた。

(笑) 戦後も農業での収入が良く暫くは農業をしていた。

青年団は道路を修理し、婦人会は毎月十五日に掃除や、食器の沸騰消毒などをしていた。もちろんテレビやインターネットが無い時代で、野川の青年団がラジオを一台買って、順番に青年団の家を回っていた。情報も何もない時代だった。

(田中さん) 電灯も一家に一つしかなかった。電灯のコードを長くして、お客が来たらその電灯を玄関に持って行った。

(大原さん) 戦後、下野川の青年会は、田んぼを耕作したり、人夫の無い家の田打ちに行った。年に一回司講が楽しみだった。

(司会者) 皆さんは戦争には行っておられま

せんが、戦時中は、どんな生活をされていましたか、又どんな場面を見ましたか？

(田中さん) 食べるものが本当に無い時代だったし、厳しい供出で家に食べるものは無かった。おひつのふたを開けての検査があった。野菜や雑穀が入ったご飯を食べていたが、白飯が見つかれば、二俵供出とか言われた。あの頃が田舎でも一番ひどかった。

(山川さん) 小学校では、空襲警報で逃げる訓練ばかりしていた。実際、宮村には空襲は無かったが、琵琶湖の近くにいた時、B29を日本の戦闘機が追っているのが見えた。機関銃の玉が水の中に入ったとき水柱が立っていた。その時の機関銃の音は本当に恐ろしかった。

(田中さん) 英語は敵国語で使ってはいけないかった。野球用語も審判は「アウト」は「だめ」、「ストライク」は「よし」と言っていた。

男の人は兵隊に入っているの、小学校の校庭で婦人会は藁人形を作って、鉢巻をして、竹槍で藁人形を突く練習をしていた。

それとお寺の釣鐘や仏壇の飾り、家庭にある金属類を兵器や飛行機にする

ために区長さんの責任で供出した。その後すぐに戦争は終わったので、あれは使われずにどこへ行ったのだろう。信楽線も供出で無く



国防婦人会竹槍訓練 (第一小)

なった。

(田中さん) お父さんが戦争に行つて、農業をする人は「三ちゃん」と言つて、じいちゃん、ばあちゃん、かあちゃんの「三ちゃん」と、子どもたちが農業を手伝っていた。学校は農繁期は農繁休暇で休みだった。それから、子どもの時、父親は三回も兵隊に行つていたので顔をよく知らなかったが、私の仕事として毎日ごはんをよそつて写真に陰膳(かげぜん)をしていた。

(大原さん) さつきも言ったけど尋常高等小学校の卒業前に満州開拓青年義勇隊に入隊し、昭和二十年八月十五日に戦争に負けた時は満州にいたが、一ヶ月後の九月九日にソ連軍が侵入してきて、それではじめて日本は負けたと判った。ソ連兵に連れて行かれそうになった。運良くシベリアには行かなかったが戦後三年たつて、昭和二十三年十一月によく日本に帰つて来られた。



伊勢廻寺 稲穂 供出風景



敗戦を知り悲しむ人々

(田中さん) 終戦の時、天皇陛下のラジオ放送を聞いて、「日本敗戦」と言ったら先生に怒られた。先生も負けたと思っていなかった。そういうことをいっさい言っていはいけなかった。たぶん、天皇陛下のお言葉も多くの国民は理解できなかったか、敵兵の誤報と信じていたようだ。

戦後は、京都や大阪からも買い出しにやってこられた。闇屋や若い奥さんが嫁入りに持ってきた高価な着物と、わずかな食料と交換している姿や、そうそう、私が始めてはいた靴もお米と交換に頂いた物だったが、すぐに靴の裏のゴムが取れてしまった。大変な思いをして交換に来ておられたと思う。

(司会者) 戦争が地方の子どもたちまで苦しめていたことがよくわかりました。

話は変わりますが、

宮地区自治振興会では、宮のお宝再発見事業として、民具や昔の道具を収集しています。ここにもその一部を展示しましたが、何か思い出のある物はございませんか。

(山川さん) この火鉢は「宮村産業組合」三十周年記念品やなあ。どこの家にもあったわ。



(山川さん) このぼんとこ(こたつ)は戦後も使っていた。豆炭アンカが出るまで、子ども頃は使っていた。冬は掘りこたつや火鉢で火を起こして、ぼんとこに入れていた。電気がなくなって楽になった。

(田中さん) ぼんとこは、堅炭を使っていたので、ガスが出たりして安全が無かった。



ラジオはあったけど戦後は、電波が悪くて聞きづらかった。真空管が珍しくて、中をのぞいていた。

この酒土瓶は三升入りやなあ、昔、おっさんが寺庄で酒買うてきて喉が渇くのでちよつとずつ飲んでたら「黒橋」で無くなってしまった。もういっぺん寺庄まで買いに戻ったって聞いたわ。

(一同) ええ時代やなあ。



(司会者) 最後に今の子どもたちを見てどう思いますか？

(山川さん) 昔が良いという訳では無いが、一般的に、親が温和しくなったのか、女性が強くなったのか、子どもが強くなって、父親の居場所が無くなってるのが歯がゆい。子どもも弱い父親を見て育つのが心配。

(大原さん) 女性の社会進出が広がると共に

結婚しない女性が増えてきているそうだが、その分結婚できない男が増えている。

(事務局長) 長時間にわたり色々の良いお話を聞かせていただきました。

「広報あさのがわ」を通じてしっかり伝え、今後の自治振興会にも役立てて行きたいと思えます。

又機会がありましたらお聞かせ下さい。



「感想とまとめ」

三人のお話から、戦前戦後の、この地域での様子をうかがい知る事ができました。子どもの視線で、人や物がなくなっていく寂しさ、食べ盛りの子どもにとって最も厳しい食生活への不満が、痛いほど感じました。

又、子どもでありながら社会の一員としての自覚があり、家や地域での貴重な労力として位置づけられていたことがよく解りました。

子どもでも社会の状況にも目が届き、地域の現状さえも理解できていた事に驚きました。今の子どもたちが五十年先、七十年先に宮地区自治振興会があったことを覚えていてくれるよう頑張らないといけません。

## 宮地区に特徴有る店が増えています。

上馬杉を車で走らせていると、「ソバの旗」が目飛び込んできます。お昼のランチと、夜は居酒屋に変わる、和風ダイニングバー『拓庵』(電話090-5908-4230)です。ご存じの通り、以前ここにはお魚屋さんが在った場所です。お昼時には沢山の車が止まっています。自治振興会の役員の引き継ぎ懇親会もここで早速させていただきましたが、安くておいしかったですよ。

又、上野川には、「HANBEY」(電話86-4468)が昨年、OPEN!小間物や、洋服など、小さなお店ですがセンスの良い物であふれています。残念ながら、お店が閉まっていることもあり、お客さん泣かせのお店ですが、最近「HANBEY」はヤマママを中心に伊賀地方にまで口コミで広がっています。

「Patisserie MIA(通称:マンマミーア)」電話0748-86-1552(上野川)や「観光ブルーベリー園 宮ベリー」電話0748-60-1746(上野川)なども含めて、宮の起爆剤になればと期待しています。(各お店の詳細情報は、お店にお聞き下さい)



和風ダイニングバー『拓庵』

## 「第三小の草刈りがんばり隊！」 今年もボランティア募集!!

### みどり豊かな第三小学校 草木も香る第三小学校

きれいなんだけど、やっぱり草がいっぱい、管理も大変です。保護者の数も減って現在は30有余名、二学期と運動会を控え、現実は大変厳しく思います。

昨年は40名ほどが集まっていたけど、たった1時間で、見事にきれいになりました。

今年も、第三小学校のために1時間のボランティアをお願いします。草刈り機と共に宜しくお願いします。

**8月18日(日)朝7時より1時間**  
**市民センター集合**

宮地区自治振興会「第三小草刈りがんばり隊」

「滋賀の宮村(昭和7年9月出版)」

### 復刻出版、全世帯配布へ

自治振興会では、まちづくり計画(平成23年8月策定)に沿って、「滋賀の宮村」を今年に復刻出版し、地区内の全世帯に配布します。

同書は、昭和初頭の恐慌による農村不況の中、全国に先駆け、経済更生運動の指定村となった郷土「宮村」の歴史を今に伝える貴重なものです。

しかし、出版から80余年が過ぎ、ほとんど地域内で見かけることがなく、いわゆる幻の書となっています。



当会は、先のまちづくり計画において、「滋賀の宮村の歴史に学ぶまちづくり」を事業の柱に掲げ、「滋賀の宮村」をかたちづかった先人たちの偉業とその精神力や指導力を後世に伝えるとともに、将来に向けた宮地区のまちづくりに生かそうと考えています。

地域に活力を取り戻したいと願う私たちが、われわれの祖先の事績から学ぶことは、決して少なくないはず。このほか、復刻出版を記念する講演会等の開催などを企画中です。計画が具体化しましたら、改めてお知らせします。

本書の出版は、甲賀市自治振興交付金(事業加算金)による地域振興事業の一環として、積立金を活用して行ったものです。「滋賀の宮村」は、旧かなづかいや旧字体であるため、読み進めるのが困難という方には、各区地区の公民館に現代口語訳を備える予定です。